

お茶会だより 11月号

矢島保育園 H30.11.22(木)

総合案内所でのお稽古を終え、今月からはまたおゆき室でのお茶会となりました。久しぶりではありましたが子ども達にとっては慣れ親しんだ場所ということもあり落ち着いた様子で臨むことができていたように思います。

床の間

- ・掛け軸 ~ 「開門落葉多」(かいもんらくよりおおし)
- ・お花 ~ 「ニシキギ、ツバキ」
- ・置き物 ~ 「茶っぱ」 お菓子 ~ 「鈴」(練切)



今月のお菓子は「鈴」。中には一目見て「鈴だ!!」と気付く子もおりまして「なぜ11月は鈴なのかな?」と聞かれると「うん??」11月15日は七五三。年長の女の子の中にはお参りや写真撮りを済ませて子もおり、神社にある鈴の形ですよ、と教えてもらうと納得の様子でした。他の子も日本の風習の話に興味深げに耳を傾けながら、お菓子を味わっていましたよ。



普段の生活でも場面を考え行動できることを心がけていいますが、お茶会を通じて考える力が培われています。この場面ではどんな言葉をつかいたらいいのか、どんな行動をしたらいいのか... 自分で考えたり、周りを見て合わせたりする力をこれから養っていきたいと思います。

【今月の床の間】



《掛け軸》 “開門落葉多し”

《茶花》 “ツバキ” “ニシキギ”

今月は、いつもの香合の場所に大きなつぼが置いてありました。このつぼには、初夏に摘んだ新茶が入っており、秋が深まったこの時期に白でひいて、新茶を楽しむとのお話でした。



掛け軸は、ほうきを持ち、落ち葉を掃く小坊主さんの姿が描かれていました。山門を開いた外には、たくさんの落ち葉があったのでしよう。まさに今の季節の情景です。

この日は、11月15日“七五三”の日。そこでお茶菓子も、ぞう組の子ども達の健やかな育ちを願い、七五三のお宮参りの“鈴”を形取ったものとなりました。



《茶菓子》“鈴”（練り切り）

【お稽古の様子】



お先に

どうぞ



さすが、年長さん。



《今月のお客様》

10月にも参加して下さった、
ぺんぎん組 茂木透真君のお祖母ちゃん

佐々木 ひとみさん

煌空君のお祖母ちゃん

高橋 愛子さん

5か月ぶりの保育園でのお稽古。

気が緩むかと思いきや、適度な緊張感を持ち、お友だちの挨拶や手順を見ながらも、次は何をするのか、それぞれ流れを考えていた子ども達でした。箸の扱い方やお茶碗の持ち方も板に付いてきて、植田先生もお客様達も「皆さん、落ち着いていて立派でした」と、褒めてくださいました。

うん、いい味!!

